

# 反大学は三クスターク一ハ 到れ!

全て、どのような手段を執っても、上昇感覚をつかまなければならぬ。権力欲でも、凌辱欲でも、贖神、淫乱、哀切り、加虐、およびその様な衝動も、それが我々の卑小な対象性をつき抜け、我々の情況、背負わされた不可能性を刺し貫き、我々の身と心を根こそぎ地獄へブチ込ませるものである限り、絶対的に正しく、我々がやってイケナイ事は全くない!

我々は季節や日中に抗い、それを越えて持続する我々の高貴で卑穢る感情によって、全ての感情で生殺しの現実に向って獅子吼する権利を持っている。我々が反大学を提起しうる内在的根拠は、人々が我々に名付けて言う「気遣」だ」の中にあり、まさにその外には一切向もないのだ。(これは本当の事だ) 我々は既に形式について多くを語りすぎている。言葉/言葉/言葉/の上でダンスをしている野蠻人ぶったイイ子チャン達が知ろうともしない我々の〈内容〉その不吉な覚醒を刺す唯一の函数は「狂気」(ああ、この言葉/) 我々は果して真の狂気を、逸脱する軌跡を、我々の寛政これ、陰謀これ、計画された狂気らしき演技の中で獲得しうるか、否、否、否、我々の先取りした無限連続の否のカードの最後の一枚が気が狂った女の微笑でひっくりかえるか/だ。我々は可能性に賭ける。展望や未来や、おお幸福にすぎ賭けな。しかし、我々はパブリシ化したマリケードを、精神化した内ケバ、外ケバの茶番に絶対的に不叛である。我々が今、ここに、こうして存在しなければならぬ、そうしてしまつ事への決定論的不快。我々の唯一の野戦の則はこれなのだ。

ナンセンス、ドツカはまさに『三無主義』へと風化した。余りにも自分を安く売つたから、自分の内なる秩序を見くみって、イリミジヨンの血肉を値切られ、せきまされたのだ。語気/用心しろ。キタマはしっかり握つていろ。淋病が流っているからな。そしてマリケードとか言うオリの中で秩序の囷いものになって居る。"戦う。"とヒナギク遊びまわしている奴らを罵倒してやれ。民口ロヒのケバでしか存在証明が出来ないバカは、はつきりと大声で「バカ!」と言ってやれ。ナンセンスの正当性を論理化しようなんてする奴は取りつけれ。(これは、絶対に実践されねばならぬ。我々はアレゴリーから無縁である) そして何よりも運動! だの「権力」だの言う無責任な放言(先日反大学講座 滝田某の醜態さを見よ)と、そういう所で安売りにしている新米を買いに来る奴隷根性を打ちのめせ。イイ暴力とワルイ暴力がある…と云う奴には、すぐさまワルイ暴力を行使せよ。純潔な人種にとつては、凡、正当性の誇示でもあり得ようか。(だいた、そんな聖人君子が居るワケがない) 我々河津に身を染めた者にとって正当性は弱さの逆差出でしかないので、サンマのようにヒラキ直らねばならぬのだ。ヒラキなあってしまえば「近くて遠い」の年アンボーなんてカ、「イ無(。嗚呼なんとい)う自由、このハフル奴。反大学地獄路線を突走る地獄の天使と恐れ、早稲田から1969年の夏に向けて流出し徘徊する幽霊となる手はうしろしかな。この道をゆけ